

<仙台国税局長賞>

よりよい医療のために

国見町立県北中学校

3年 霜山 雅人

僕の毎月のおこづかいを貯めて買う物は、マンガの単行本だ。裏を見ると「〇〇〇円＋（税）」と書いてある。父が昔、買ってくれた本は、税率が5%だ。つまり、中学校3年生の僕が買っても、勤めている父が買っても消費税は昔から誰もが納めていたことになる。

平成26年4月に消費税は、5%から8%になった。そして平成29年4月には、8%から10%になる予定だ。一番身近な税金に変化が起きた時は、とても驚いた。税について良いイメージを持つことができなくなった。しかし、増税をきっかけに、消費税の使い道について調べてみようと思った。

消費税の特徴は、高い調達力を持ち、経済の動向に左右されにくく安定していること。そして父のように勤労世代など、特定の人への負担が集中しないことだ。その国民が納めた消費税は、年金や医療などの社会保障の安定化と充実に使われている。

僕は、小学校4年生の時に足の病気になり手術をして1年間の入院生活を送った。母から、

「子供は医療費負担が少なく済むから助かった。」

と、聞かされた時がある。両親と離れて病院で過ごすのは不安もあったが、先生や看護師さん、保育士さん、リハビリの先生のおかげで楽しく生活できた。今は病気の状態も良くなり、充実した中学校生活を送ることができている。この入院生活も税金が使用されていたのだ。僕の病気は、難病とまではいかないが、珍しい病気だ。しかし入院していた病院には、僕よりも重度な障害を持ったり、重い病気を持ったりしている子供達が

いた。消費税増税により、難病対策に300億円が当てられている。医療や介護のサービス提供体制の整備にも予算が組まれている。子供達がより良い医療を受けるためにも、安定した財源の確保が必要だと、調べてみて知ることができた。大切な家族が病気になった時に、安心して医療サービスを受けられるということは、国民がきちんと税金を納めている上で成り立っていることだと感じた。入院している時は小学生ということもあり、税金との繋がりなど考えず生活をしていた。こうして増税をきっかけに調べることにより、税金で支えられた生活だったことを認識できた。

僕自身のおこづかいで納める消費税はとても微々たる物だ。しかし日本国民皆が納めれば、年金や医療などの社会保障の安定化と充実という目的を達成できるのではないか。誰もが平等に生活できる日本になって欲しい。僕は将来、消費税以外にも数多くの種類の税金を納めることになるが、その内容をもっと学習し、社会の仕組みを理解していこうと思う。そして、税に支えられた入院生活を思い出し、きちんと納税して、病気と闘っている子供達を支えたいと思う。